

【草花の部屋】

スターチス（イソマツ科イソマツ属 *Limonium sinuatum*）

【和名】：ハナハマサジ(花浜匙) 【別名】：リモニウム

【英名】：Statice、Limonium、Wavyleaf sea-lavender

ナデシコ目 常緑多年草

【原産地】：ヨーロッパ

【花言葉】：変わらぬ心、永遠に変わらない

【花色】：赤、白、桃、黄、青、紫



← 写真-1 スターチス

撮影日：2019年05月08日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん

▽ 写真-2 スターチスの花

撮影日：2019年05月08日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



← 写真-3 スターチスの花

撮影日：2019年06月04日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん





← 写真-4, 5 スターチスの花
 撮影日：2019年06月04日
 撮影場所：大和郡山市郊外にて
 撮影者：M さん

ご近所を散策中に、家庭菜園の一角に咲いているのを見つけました。赤、白、桃、黄、青、紫が咲いていましたが、その一部をカメラに納めました。

高さ 45cm 程度で、茎は直立し、角張っていて翼があって葉のように見えます。葉は槍形で浅く裂けます。花期は夏から初秋。茎の先に円錐花序または穂状花序をつけ、個々の花は筒状で、萼片は青や紫、白、黄、桃色など多色で目立ち、花弁は白くて小さい。

スターチスが日本へ伝わったのは、明治時代以降です。イソマツ属の植物は世界中の海岸、砂漠などに 300 種が知られており、日本の海岸にもこの仲間のイソマツ (*L. wrightii*) やハマサジ (*L. tetragonum*) が自生します。

栽培では 1 年草として育てられ、観賞用、切り花に用いられるほか、花がしぼんだ後も萼は残り、乾かしても色落ちしないのでドライフラワーによく用いられています。

スターチスの仲間には、一・二年草、多年草、半低木になるものがあります。

一・二年草として扱われるシヌアツム種 (ハナハマサジ/*Limonium sinuatum*) は、桃、白、青のカラフルな萼が美しく、日もちもよいため切り花やドライフラワーとして人気で、多く栽培されているそうです。シヌアツム種とよく似た性質で黄色の萼をもつものは、ボンデュエリ種 (*L. bonduellei*) ともされますが、シヌアツム種の一つとして扱うのが一般的だそうです。

多年草として扱われるものには、ベリディフォリウム種 (*L. bellidifolium*) やラティフォリウム種 (*L. latifolium*) があり、苗やタネで流通し、宿根スターチスと呼ばれることもあります。なお、切り花として流通する宿根スターチスは、ベリディフォリウム種やラティフォリウム種などを交雑して改良された品種だそうです。

高温多湿を嫌うので、水はけのよい用土や場所に植えつけ、日によく当てて育てると良いそうです。根を切ることを嫌うので、本葉が 2 枚程度の小さな苗のときに、根を切らないように注意してポットに鉢上げし、植えつけの際にも根鉢をくずさないことが大切だそうです。